

## 2017年7月九州北部豪雨における災害ボランティアセンター の運営実態（速報）

### Actual Status of Disaster Volunteer Center Operation in the 2017 Northern Kyushu Heavy Rainfall (Quick Report)

○崔 青林<sup>1</sup>, 池田 真幸<sup>1</sup>, 水井 良暢<sup>1</sup>, 島崎 敢<sup>1</sup>, 李 泰榮<sup>1</sup>, 臼田 裕一郎<sup>1</sup>  
Qinglin CUI<sup>1</sup>, Masaki IKEDA<sup>1</sup>, Yoshinobu MIZUI<sup>1</sup>, Kan SHIMAZAKI<sup>1</sup>,  
Taiyoung YI<sup>1</sup>, and Yuichiro USUDA<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立研究開発法人 防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門  
National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience

Severe damage occurred in northern Kyushu centering around Fukuoka Prefecture and Oita Prefecture due to the torrential rain on July 5-6, 2017. The National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience (NIED) has conducted disaster response support and survey in the affected areas since July 5. This paper reports the actual status of disaster volunteer center (VC) in the Northern Kyushu Heavy Rainfall, mainly focusing on the results of field survey, interview and public information of related organizations.

**Keywords** : Disaster volunteer, Disaster VC, headquarters function, spatial arrangement, Northern Kyushu Heavy Rainfall

#### 1. はじめに

2017年7月5日から6日にかけて、発達した雨雲（線状降水帯）により、九州北部地方で記録的な集中豪雨<sup>1)</sup>が発生した。その被害の規模は気象庁が自然事象について命名する基準を下回ってはいたものの、線状降水帯がもたらす局地的な集中豪雨が長時間続いた特異な状況であることや、人的被害が大きいことなどを理由に「2017年九州北部豪雨」と正式に命名した<sup>2)</sup>。

今回の九州北部豪雨では、被災地の社会福祉協議会（以降、社協）が中心となって、災害ボランティアセンター（以降、災害 VC）を開設し被災地でのボランティア活動の調整を行っている。国立研究開発法人防災科学技術研究所は、7/5 から福岡県と大分県で災害対応支援や被災地の実態調査を継続している。

本稿では、九州北部豪雨における災害 VC について、現時点で得られた現地調査と関係者ヒアリングの結果と運営関係機関の公開情報を整理した被災地の各災害 VC の運営実態を報告する。なお、本原稿は災害対応実施中に執筆しており、正式名称や日時について一部確認が不十分なものも含まれる可能性がある点、ご了承願いたい。

#### 2. 調査の内容

本稿の速報には、効果的な災害 VC の運営につながる知見を得るために、運営主体の各社会福祉協議会の情報開示<sup>3) 4) 5)</sup>に、7月中旬から下旬にかけて実施した関係者へのヒアリング調査、朝倉市災害ボランティアセンター（朝倉市災害 VC）・東峰村災害ボランティアセンター（東峰村災害 VC）の現地調査の内容を加えて、被災地の災害 VC の運営実態（表 1）を整理した。

#### 3. 福岡県災害 VC の運営実態の整理

##### 3.1 福岡県社協の運営支援

福岡県社協は、7/5（水）16時に「福岡県社協災害救援本部」を設置し、県内の市町村社協に対して、被害状況などの情報収集を行った。また、その後開設された朝倉市災害 VC、東峰村災害 VC と添田町災害 VC への支援、活動情報の集約・公開等に努めている。また、県内だけでなく九州・中国ブロックの各県・市区町村社協と職員による災害 VC の運営支援の調整を行った。全国社協や支援 P、JVOAD とも連携し、状況の確認および情報収集・公開、支援の調整等を実施した。

##### 3.2 朝倉市災害 VC の運営実態

朝倉市社協は、朝倉市両筑地区各社協（住民自治の任意団体）の協力のもと、災害 VC の立ち上げに向け、協議・準備を開始した。7/7（金）の18時に、朝倉市社協内に「朝倉市災害 VC」を立ち上げ、ボランティアの募集を行うための準備をはじめた。その後、朝倉市災害 VC は朝倉球場に拠点を置いて開設・運営を始めた。

朝倉球場の敷地内には、「ボランティア用駐車場」、「仮設トイレ」、「資機材置き場」、「物資倉庫・トイレ」、「受付」、「オリエンテーション」、「スタッフ休憩所・事務室」、「杷木サテライト行き駐車所」、「マッチング」、「飲料等配布」、「バス・人員輸送車駐車場」が設置されていた。

その後、2017年7/31（月）と10/6（金）に表1にまとめた通りに、2回の移転を経て現在の設置場所に至る。ボランティア受付は悪天候（雨）や台風接近等による中止を除き、原稿提出日の10/6（金）現在も継続している。なお、福岡県社協の公表によれば、開設から2017年9月

18日までの間に、朝倉市災害 VC を通じて、延べ 42,672 名のボランティアが活動に参加した。

### 3.3 東峰村災害 VC の運営実態

東峰村社協は開設の事前準備を経て 7/14 (金) に「東峰村災害 VC」を開設した。災害による道路事情を考慮して、東峰村災害 VC は「本所 (小石原)」と「宝珠山サテライト」の 2 か所で運営を開始した。

本所 (小石原) の敷地内には、「資機材洗い場」, 「資機材置き場」, 「物資配布 (飲料、軍手等)」, 「軽トラック・人員輸送車駐車」, 「受付」, 「ボラセンスタッフ休憩所・事務室」, 「オリエンテーション」, 「マッチング」, 「仮設トイレ」が設置されていた。

同 VC は生活再建・生活支援のニーズ状況を考慮して、8/19 (土) には、「宝珠山サテライト」に拠点を統合し、閉所 (9/1) まで活動を継続した。なお、福岡県社協の公表によれば、開設から閉所までの間に、東峰村災害 VC を通じて、延べ 7,935 名のボランティアが活動に参加した。

## 4. 終わりに

本稿では、九州北部豪雨における災害 VC について、現時点で整理した各災害 VC の運営実態の一部をタイムライン形式で速報した。特に福岡県の災害 VC の運営実態から、第 1 に、社協間の連携と役割分担、第 2 に、情

報収集・集約・開示の仕組み、第 3 に、災害 VC の運営について、3 つの特徴的なポイントを抽出した。これらのポイントについての追加調査の実施、さらに過去の災害対応事例との比較が今後の課題である。

謝辞：実態調査並びにヒアリング調査にご協力いただいた災害 VC の関係者には感謝する。

### 参考文献：

- 1) 気象庁：平成 29 年 7 月九州北部豪雨について、2017.07.19  
[http://www.jma.go.jp/jma/press/1707/19a/20170719\\_san kou.pdf](http://www.jma.go.jp/jma/press/1707/19a/20170719_san kou.pdf)
- 2) 気象庁：平成 29 年 7 月 5 日から 6 日に九州北部地方で発生した豪雨の命名について、2017.7.19  
[http://www.jma.go.jp/jma/press/1707/19a/20170719\\_gou umeimei.pdf](http://www.jma.go.jp/jma/press/1707/19a/20170719_gou umeimei.pdf)
- 3) 福岡県社会福祉協議会：災害救援情報第 1 号～19 号、2017. 7.3～9.4
- 4) 福岡県社会福祉協議会：ボランティアの参加状況および活動報告、2017.10.2 19 時更新版  
<http://fuku-shakyo.jp/kouhou/H29saigai.html>
- 5) 全国社会福祉協議会：被災地支援・災害ボランティア情報、九州北部豪雨災害 (全 29 報)、2017.  
<https://www.saigaivc.com/>

表 1：九州北部豪雨における各災害 VC の運営実態 (福岡県を中心に)

日時・期間	主な出来事			
	福岡県社協	朝倉市社協	東峰村社協	ほか
7/5(水)	・16:00 「福岡県社協災害救援本部」を設置 ・被害状況などの情報収集を開始 ・災害救援情報(第2報)発行	(情報不十分のため、空欄)	(情報不十分のため、空欄)	・災害救助法の適用※7/7、新たに7/5に遡り適用
7/6(木)	・朝倉市、朝倉郡東峰村に職員を派遣 ・災害救援情報(第3報)発行	・災害VCの立ち上げに向けた協議・準備・現地調査等	(情報不十分のため、空欄)	・13:00 「大分県災害VC」を立ち上げた(大分県社協)
7/7(金)	・朝倉市と東峰村にそれぞれ2名ずつ職員を派遣し、被害状況などの情報収集 ・災害救援情報(第4、5報)発行	・災害VC本部の設置に向けて、朝倉市災害対策本部と協議 ・18:00 同社協内に「朝倉市災害VC」を開設	(情報不十分のため、空欄)	・ボランティア活動保険の大規模災害特例が適用されることになった。
7/8(土)	・「福岡県社協災害救援本部」のFacebookページを開設・情報発信 ・災害救援情報(第6報)発行	・ボランティアの応募を行うための準備等	(情報不十分のため、空欄)	・9:00 「日田市災害VC」を開設(日田市社協)
7/10(月)	・朝倉市、東峰村、添田町にそれぞれ2名ずつ職員を派遣し、災害ボランティアセンターの運営を支援	・ボランティアの受付開始(9:00～12:00 157名)	・災害VCの立ち上げに向けた協議・準備・現地調査等	・添田町災害VCを開設(添田町社協とボランティア連絡協議会)
7/11(火)	・県内各社協との支援調整 ・九州・中国ブロックの各県・市区町村社協職員による災害VCの運営支援の調整等	・30件のニュースに対して、336名のボランティアが活動	・「東峰村災害VC」を7/14(金)に開設するための準備 ・特設HPとFacebookページを開設	・27件のニュースに163名のボランティアが活動(日田市災害VC) ・4件のニュースに19名のボランティアが活動(添田町災害VC)
7/13(木)	・県内の各災害VCのボランティア活動者数等の情報をホームページで公開開始	・536名のボランティアが活動に参加 ・7/15(土)～17(月)の連休中のための団体受付(10名以上)の予約を開始	・「東峰村災害VC」を7/14(金)に開設 ・災害による道路事情を配慮して当面の間、「本所(小石原)」及び「宝珠山サテライト」の2か所で運営	・全社協の職員1名が情報収集・災害ボランティアセンター支援調整などのために現地入り ・全社協、支援P、JVODADが連携して、状況の確認及び情報収集、支援の調整を開始。
7/14(金)	・災害救援情報(第7報)発行			
7/15(土)～17(月)三連休	・福岡県(朝倉市、添田町、東峰村)の各災害VCでは、延べ7,154名と多くのボランティアが被災地支援活動に参加したと発表	・初日に1,497名、二日目に2,266名、三日目に1,224名で計4,987名のボランティアが活動に参加	・初日に577名、二日目に790名、三日目に461名で計1,828名のボランティアが活動に参加	・16日、被害の大きかった大鶴地区に「大鶴サテライト」を開設(日田市災害VC)
7月後半	・7/30(日)≪災害ボランティア講座≫ ・災害救援情報(第8-10報)発行 ※7月中の福岡県(朝倉市、添田町、東峰村)の各災害VCの延べボランティア数:23,811名	・7/31(月)朝倉市災害VCの移転(旧設置場所:朝倉球場、新設置場所:旧杷木パレス) ※7月中の延べボランティア数:17,610名	・7/29(土)～30(日)鼓東地区水路復旧プロジェクト・ボランティア活動(両日とも100名以上) ※7月中の延べボランティア数:5,376名	・7/21(金)一般ボランティアの受付を終了した(添田町災害VC) ・8/1以降、「大鶴サテライト」を支援活動の拠点(本所と統合)とし活動を継続する(日田市災害VC)
8月	・8/5(土)、6(日)≪災害ボランティア講座≫ ・災害救援情報(第11-14報)発行 ※8月現在の福岡県の各災害VCの延べボランティア数:17,849名	・8/2(水)より、新設置場所にて災害ボランティアセンターを再開 ※8月の延べボランティア数:15,290名	・8/19(土)から、「本所(小石原)」及び「宝珠山サテライト」の2か所を統合し宝珠山サテライト(「山村文化交流の郷いぶき館」)1か所で運営 ※8月の延べボランティア数:2,559名	・8/1(火)閉所(添田町災害VC) ・8/6-7(休)所(日田市災害VC) ・8/13(日)～15(火)休所(日田市災害VC) ・8/16(水)以降は、週末(土・日)のみボランティア活動を行い、8/27に閉所(日田市災害VC)
9月以降	・団体によるボランティア活動への呼びかけをさらに強化 ・朝倉市災害VC支援のための県内市町村社協職員派遣の調整等 ・災害救援情報(第15-19報)発行	・10/1から金・土・日のみの受付 ・10/6(金)朝倉市災害VCの移転(新設置場所:朝倉市杷木老人福祉センター) ・10/6(金)から地域の実状に合わせたボランティア数の調整を行う。 ・継続中 ※9月中(28日までの)延べボランティア数:9,772名	・9/1閉所 ・9/4以降、東峰村社会福祉協議会ボランティアセンターに移行し、ボランティアの登録制により支援活動	・NPO等が協働で運営する「ひちくボランティアセンター」が金・土・日を活動日として活動中(日田市)